



FUKUOKA

校訓「賢く」「優しく」「逞しく」を体現
(福岡県立青豊高等学校)



授業 (音楽Ⅱ バイオリン演奏)



授業 (産業社会と人間 職業別講話)



体育大会 (応援合戦)



文化祭 (書道パフォーマンス)

CONTENTS

教育の広場

全ての子どもたちのためのプログラミング教育
福岡工業大学短期大学部 教授 石塚 丈晴 …… 1

特集

本県におけるプログラミング教育推進の取組 [義務教育課] …… 3
令和2年度福岡県教育委員会が実施した文化芸術事業 [社会教育課] …… 5

社会教育情報

子どもたちの健全な育成を目指して～地域・学校・家庭等との連携～
[久留米市津福校区まちづくり協議会] …… 7

県立学校の特色ある取組

新しい時代を拓き社会の発展に寄与する人材の育成～春日学術研究会の取組～
[福岡県立春日高等学校] …… 9
地域に根ざす学校づくり～連続と続くボランティア活動の取組とその成果
[福岡県立八幡工業高等学校] …… 11

新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育実践

振り返りを通して自立した学習者を育てる～ICTを活用した授業改善～
[福岡県立中間高等学校] …… 13

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
結果と今後の取組 [義務教育課] …… 15

ふくおか教育月間イメージキャラクター「ミライル」の紹介 [総務企画課] …… 17
あなたの学校や地域に体験活動を届けたい！ふくおか体験活動出前隊
[福岡県立社会教育総合センター、福岡県立英彦山青年の家、福岡県立少年自然の家、玄海の家] …… 18

特色ある学校教育活動

「多文化共生のカリキュラム開発」の取組 [福岡市立福岡小学校] …… 19

世界の舞台で輝け！県内高校生アスリートの挑戦

～トップアスリート育成強化事業を通して～ [体育スポーツ健康課] …… 22

令和3年度 福岡県教育センター事業の紹介

[福岡県教育センター] …… 24

教育施設からの事業だより

新型コロナウイルス感染症に対応した取組 [福岡県体育研究所] …… 26

お知らせ

総務企画課／教職員課／九州歴史資料館／放送大学福岡学習センター／
福岡県青少年科学館 …… 28

九州歴史資料館 展示品 名選 No.48

[九州歴史資料館]

「教育福岡」はホームページ上で
見ることができます。

福岡県

検索

教育委員会 > 総務企画課 > 「教育福岡」をクリック

<九州ロゴマーク>

「九州の連携」を象徴し、
「九州はひとつ」を表現
しています。



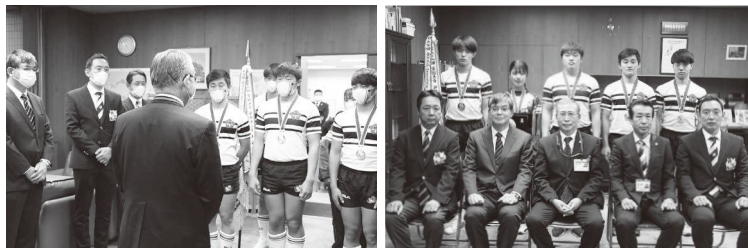
PHOTO NEWS

[フォトニュース]

12/18 筑紫高等学校ラグビーフットボール部 教育長表敬訪問

第100回全国高等学校ラグビーフットボール大会出場を報告するため城戸教育長を表敬訪問しました。

訪問では、主将の藤田幹太ふじた かんたさんが出場を報告するとともに選手挨拶を行いました。



12/23 水産高等学校海洋科2年 教育長表敬訪問

海洋科2年生の代表生徒が9月16日（水）から10月28日（水）まで43日間、グアム、マリアナ諸島東沖でのマグロ延縄漁業実習をはじめとする長期航海実習から帰還したことを報告するため、城戸教育長を表敬訪問しました。

生徒からは、海友丸の航路や実習内容、船内生活について、報告が行われました。



1/13 令和2年度 福岡県とびうめ教育 表彰式

本表彰は、県内教職員の優れた教育活動に対し、その努力をたたえ、更なる教育の振興を図るため、福岡県公立学校優秀教職員表彰、福岡県公立学校教育マイスター表彰、ふくおか教育論文表彰、福岡県公立学校優秀校表彰の4部門を合同して、平成27年度から実施しています。

また、教育委員会会議室において表彰式が開催され、城戸教育長から各部門の代表者へ表彰状が授与されました。



今月の表紙「元気いっぱい子どもたち」

校訓「賢く」「優しく」「逞しく」を体現 福岡県立青豊高等学校

福岡県立青豊高等学校は、豊前市に位置し、北九州地区唯一の総合学科高校として平成15年4月に開校、令和4年に創立20周年を迎えます。本校は「明日の社会を担う人間の育成」を使命に掲げ、生徒一人一人が生涯にわたって一社会人として心豊かに、主体的、個性的、創造的に生きていくための資質や能力を育てています。

授業科目は総合学科高校ならではのバラエティに富み、普通科高校から専門学科高校まで複数の高校が集まっているかのようです。その中で生徒たちは、自己の将来を見据えた科目選択を行い進路実現を目指しています。

本年度はコロナ禍で教育活動が制限される中、体育大会・文化祭を開催することができました。さらに、部活動には全校生徒の81%の生徒が所属し、感染症対策に気を配りながら活動しています。

これからも「夢をカタチに」を合言葉に日々の教育活動に全力で取り組んでいきます。

全ての子供たちのためのプログラミング教育

福岡工業大学短期大学部 教授 石塚 丈晴

1 情報活用能力育成の強化

2020年度から小学校で実施されている新学習指導要領に続き、2021年度は中学校、2022年度は高等学校と新学習指導要領に移行していく。旧学習指導要領でもICT

活用を含めた情報活用能力の育成は求められていたが、今回の学習指導要領改訂ではICT活用及びコンピュータの活用による情報活用能力の育成があらゆる場面で盛り込まれ、情報活用能力育成の徹底化が求められている。

2 情報活用能力とプログラミング

新学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけは一言でいえば、小学校段階ではプログラミング教育の導入、中学校ではプログラミング教育の強化と情報科学教育の導入、高等学校ではプログラミング教育と情報科学教育の必修化、となる。

世間では、「プログラミング」という言葉だけがセンセーショナルに取り上げられることも多いが、「プログラミング」単体で

考えることは表面的な議論に陥る危険性がある。何故ならプログラミングは情報活用能力の一部であり、情報活用能力の育成の一環として行わなければならないからである。筆者は2014年9月からイングランドの公立小学校に導入された、全学年必修の教科「コンピューティング」に関する調査を行っているが、「コンピューティング」の授業時間の内、直接プログラミングに関係するのは全体の6分の1強程度であり、残りはICT活用、情報活用、情報モラルなどである。実際、プログラミング教育を先進的に実施している日本の学校でも、児童生徒の情報活用能力が高い学校ほど、プログラミング教育をスムーズに導入できている。従って、小学校低学年からICT機器に慣れさせ、特に小学校中学年以上はキーボード入力を身に付け、情報活用能力を高めていくことが大切である。

3 小学校におけるプログラミング教育

小学校におけるプログラミング教育の目標は二つある。一つはプログラミング的思考の育成であり、もう一つは技術の理解である。

最初に、技術の理解を解説する。私たちの身の回りには非常に多くのコンピュータが使われている。PCやスマホだけではなく、炊飯器やテレビ、ICカードにもコンピュータが入っている。何故、私たちの身の回りで多くのコンピュータが使われているか。その理由を理解させることが目標である。

次に、プログラミング的思考の育成である。このプログラミング的思考はよく誤解されることもあるが、プログラミングするときだけに使われる考え方はなく、私たちの普段の生活や仕事の上でも使われる概念である。具体的には、我々がある事（例えば、料理や旅行、仕事）を効率的に実行しようとする場合、まず何をすべきかを分析して細かい処理に分ける。次に、その処理を組み合わせて目標達成を目指し、更に処理の手順や条件などを変えながら最適解を見つけていく。この過程全てがプログラミング的思考であり、言い換えれば「段取り力」を身に付けるということである。では何故プログラミング的思考と呼ばれているかというと、プログラミングを通して学ぶと効率的に理解し、身に付けることができるものだからである。

4 小学校におけるプログラミング的思考の育成

プログラミングをする際によく使われる処理は「順序」「分岐」「繰り返し」である。つまり、まず児童は目的達成のために何をすべきかを分析する。次に「順序」「分岐」「繰り返し」を組み合わせてプログラムを作る。そして、そのプログラムを使っているような学習にも活かすということが求められる。

では、「順序」「分岐」「繰り返し」はどこで教えるのかという

ことになるが、実は概念自体は既存の教科で扱われている（ただし、「順序」「分岐」「繰り返し」という言葉は使用しない）。例えば、1年生国語では、文章を正しい順でならべるという学習があるが、これは「順序」の概念を学習している。また、2年生算数では三角形と四角形の分類で、「順序」「分岐」の概念を、3年生算数の二位数のかけ算では「順序」「分岐」「繰り返し」の概念を学んでいる。従って普段の授業をpushしていくことが、プログラミング的思考の育成の第一歩となる。

続いて、プログラミングと結び付けて「順序」「分岐」「繰り返し」を言葉として理解させ、「順序」「分岐」「繰り返し」を組み合わせるプログラミングを作る学習を行う。そして、プログラミング的思考やプログラムを各教科の学びや日々の生活にも活かしていくことが大切となる。

5 最後に

筆者はイングランドでの成功事例を分析したところ、専科教員に任せず、全ての教員がコンピューティングを担当している学校が成功していることに気が付いた。多くの教員は、プログラミングを教えることを不安に思っていることは想像できる。しかし例えば、小学校体育で跳び箱の指導をするが、教員は跳び箱のプロである必要はない。同様に、プログラミングも教員はプログラミングのプロである必要はないのである。何より教員自身も楽しいと思うことが大切で、それによって普段の授業にも活かすことができる。あまり力まずに、挑戦してみませんか？

特集

本県におけるプログラミング教育推進の取組 義務教育課

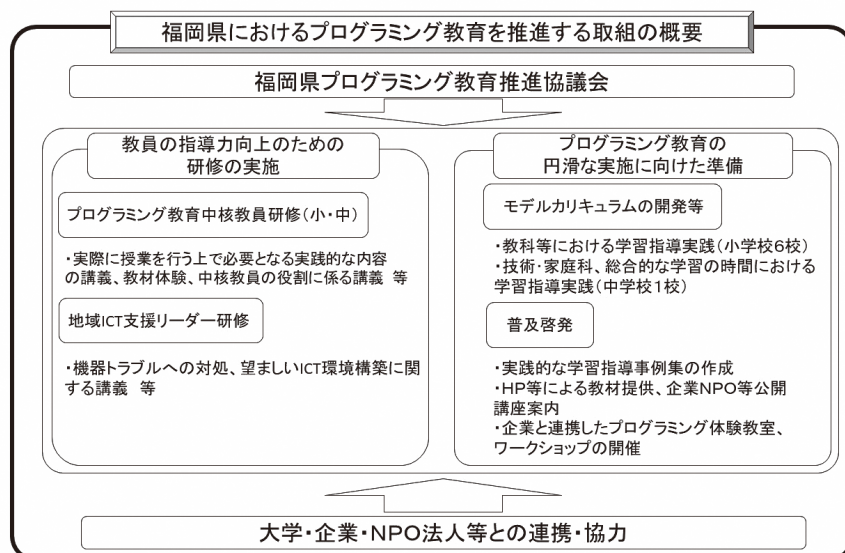
1 目的

本年度から小学校の学習指導要領が全面実施され、プログラミング教育が始まりました。来年度からは中学校においても実施されます。本県では、プログラミング教育が円滑に実施されるよう、令和元年度から3年間、教員研修と、モデルカリキュラムの開発に取り組んでいます。

2 概要

教育関係者及びプログラミング教育の有識者で構成する「福岡県プログラミング教育推進協議会」での議論を基に、次の内容を行っています。

- (1) 小・中学校プログラミング教育中核教員研修
- (2) 地域ICT支援リーダー研修
- (3) 実践事例の作成やモデルカリキュラムの開発
〈研究協力校〉
那珂川市立片縄小学校 岡垣町立吉木小学校
うきは市立千年小学校 八女市立福島小学校
嘉麻市立嘉穂小学校 苅田町立白川小学校
那珂川市立那珂川中学校



3 内容

(1) 小・中学校プログラミング教育中核教員研修
プログラミング教育の推進に当たっては、各学校で計画を作成したり、指導・助言を行ったりする教員の育成が必要であることから、小・中学校でこうした役割を担う中核教員を育成しています。

① 小学校プログラミング教育中核教員研修
小学校では、学校に1名の中核となる教員を育成する研修を実施しています。令和2年度は、1人1台端末を準備し、次の内容で研修を行いました。

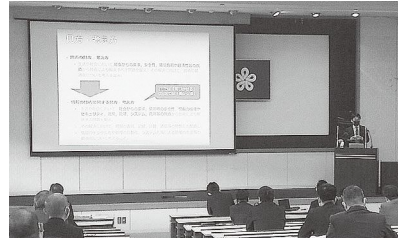
- ・プログラミング教育の意義及び中核教員の役割に関する説明
- ・算数科及び理科におけるプログラミング教材活用の体験

② 中学校プログラミング教育中核教員研修

令和3年度からは、新中学校学習指導要領が全面実施となります。特に技術・家庭科の技術分野「D情報の技術」に「双方向性のあるコンテンツのプログラミング」が新設されたことを受けて、令和2年度は、中学校の技術・家庭

科教員を対象に、次の内容で研修を行いました。

- ・学習指導要領の改善点及びプログラミング教育の意義に関する講義
- ・双方向性のあるコンテンツの説明及び模擬授業を通じた教材体験



学習指導要領の改善点に関する講義



教材体験

(2) 地域ICT支援リーダー研修

プログラミング教育をはじめ、ICTの効果的な活用のため、各学校においては、機器の不具合への確な対処など、望ましい情報環境を構築する役割を担うことができる教員が必要で、このような役割を担う教員を育成するため、各教育事務所から推薦された30名の教員に対し、次の内容で研修を行いました。

- ・情報活用能力を育てるためのICT環境整備及び地域ICT支援リーダーの役割に関する講義
- ・校内におけるICTトラブルへの対処に関する演習

(3) 実践事例の作成やモデルカリキュラムの開発

新学習指導要領では、「情報活用能力」が「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けら

れ、その育成を図るために、「各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」とこととされています。こうした観点から、小学校6校、中学校1校の研究協力校が、下表のとおり、各教科等におけるプログラミング教育の実践に取り組んでいます。

本年度末には、全ての学校が活用できるよう、各研究協力校の実践事例をもとに作成したモデルカリキュラムを福岡県教育委員会ホームページで公開することとしています。



ホームページの作成



自動運転プログラムの作成

4 おわりに

現在の子供たちが生きていく社会では、生活の中でICTを日常的に活用することが当然となっていきます。県では、そのような社会で子供たちが生きていくために必要な資質・能力を育む教育が各学校で円滑に実施されるよう、今後も必要な支援を行ってまいります。

プログラミング教育の実践

教科等	学年	単元名	プログラミングの活動
国語	小2	「みちあんないしよう」	動きのある道案内の作成
	小3	「つたわる言葉「ことわざ・故事成語」～「ことわざブックを作ろう」	動きのあることわざブックの作成
社会	小4	「知りたいな、47 都道府県」	都道府県クイズの作成
	小5	「自動車生産にはげむ人々」	センサーで発進等を制御するプログラムの作成
算数	小5	「整数の性質」	公倍数等を画面に表示させるプログラムの作成
理科	小6	「電気と私たちの暮らし」	効率的に電気を利用するプログラムの作成
生活	小2	「町のひとつにしたい」	写真等を提示するチラシの作成
音楽	小5	「いろいろな音色を感じ取ろう」	電子媒体での音楽づくり
図画工作	小4	「絵から聞こえてくる音」	音と絵が融合した作品の制作
体育	小3	「跳び箱」	分解した動きを組み合わせ一連の動きを作成
家庭	小6	「くふうしよう おいしい食事」	炊飯の手順の作成
総合的な学習の時間	小5	～社会科の発展学習として～「自動運転カーを走らせよう」	決められたルートを通るプログラムの作成
技術・家庭(技術分野)	中2	「ホームページの作成」	双方向性のあるコンテンツの作成
総合的な学習の時間	中2	「ふるさとの魅力を発信しよう」	ホームページのプログラムの仕方理解

令和2年度福岡県教育委員会が実施した文化芸術事業

社会教育課

子ども達が文化芸術に触れる機会の充実を図るため、県教育委員会では文化庁や本県の予算及び（公財）福岡県教育文化奨学財団の助成金で各種事業を実施しています。そこで、本年度実施した事業の一部を紹介します。

文化庁の事業

○文化芸術による子供育成総合事業（巡回公演事業）

〔趣旨〕文化庁が選定した文化芸術団体が、学校の体育館などでオーケストラや演劇等の巡回公演を行います。優れた舞台芸術を鑑賞するとともに、ワークショップを行い、本物の舞台芸術に身近に触れる機会を提供します。

〔実施報告（うきは市立山春小学校）〕

6月24日に（一財）谷桃子バレエ団によるワークショップを行いました。5年生22名の児童がバレエの基本的動作の指導を受け、体の使い方・腕や足の動かし方を学びました。曲に合わせて体験したことで、子ども達のバレエに対する関心を高め、楽しさを味わうことにつながり、本公演に向けて意欲を高めました。

10月9日に本公演を行いました。まず、5年生の児童によるバレエスランや身ぶり手ぶりで会話をするダンス「マイム」の実演を全校児童で見学しました。その後、バレエ団による「白

鳥の湖」を全校児童で鑑賞しました。バレエを初めて鑑賞する児童が多く、本格的な舞台と照明に驚きながら、ダンサーの軽やかなリフトやジャンプに大きな拍手を送っていました。特に、5年生は、ワークショップを体験してただけに、感動が大きかったようです。事業終了後、子ども達が自分から積極的に表現したり、友達のをよさを見つけ、伝えたりする姿が多く見られるようになりました。



ダンサーと一緒に
バレエレッスンを受ける5年生

○文化芸術による子供育成総合事業（芸術家の派遣事業）

〔趣旨〕個人又は少人数の芸術家を派遣し、講話、実技披露、実技指導を実施することにより、優れた芸術を鑑賞し、芸術への関心を高めます。

〔実施報告（添田町立添田小学校）〕

10月16日、22日、11月26日に本町在住のオペラ歌手重藤仁美先生を講師に招いて5年生が発

声方法や聴く人を感動させる歌い方等を学びました。

まず、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」の中から1曲を講師に披露していただきました。体育館の外まで響き渡る美しいソプラノと迫力に子ども達は終始圧倒されていました。また、講師から、オペラ歌手を目指した話や夢を実現するまでに努力したこと、歌う上で大切にしていることなどについて話をしていただきました。

体験活動としては、「故郷の人々」「このぼり」「ハローシャイニングブルー」の3曲の歌唱指導を受けました。今年度は、新型コロナウイルスで音楽の授業での歌唱の学習ができませんでしたが、目の前で講師に指導していただいたことで、子ども達の歌声が変わっていくことを実感しました。また、子ども達は、身近に素晴らしい芸術家がいることを誇りに思うと共に、歌うことの楽しさを味わうことができ、貴重な体験ができました。



歌唱指導を受ける子ども達

県及び（公財）福岡県教育文化奨学財団の事業

○特別支援学校等芸術鑑賞事業

〔趣旨〕芸術文化に接する機会の少ない特別支援学校等の児童生徒に芸術鑑賞の機会を提供し、本県の芸術文化の振興に寄与します。

〔実施報告（福岡県立太宰府特別支援学校）〕

9月15日に本校体育館において、小学部5・6年生を対象に中国獅子&中国雑技「アジアンドラゴン」の鑑賞会を行い、中国南方獅子舞や中国武術など迫力満点の技を多数披露していただきました。技の一つである変面では、次々に変わる面の色や表情に気付き、「あつ」と指を差したり、拍手を送ったりする児童の姿が見られました。また、雑技では、「がんばれー」と演者の方を応援しながら、手を合わせて成功を祈る姿もありました。さらに、児童の特性を踏まえて、赤座布団を使った技や龍舞チャレンジなど体験の時間もたくさん取っていただきました。初めて触れる赤座布団やキラキラの龍に児童も興味津々でした。

今回の芸術鑑賞会では、児童の目の輝き、笑顔がとても印象的でした。公演後も「ドラゴンにさわってみたいことができて」面白かった」と児童同士でやりとりしたり、雑技を真似たりするなど異文化への興味関心も広がり、児童にとって貴重な経験となりました。



アジアンドラゴンの方との記念撮影

○舞台芸術感動体験事業

〔趣旨〕小中学生に対して、最高の舞台におけ

る質の高い芸術を鑑賞する機会を提供することで、調和のとれた情操の涵養と豊かな心の育成を図ります。

〔実施報告（福岡県教育庁社会教育課）〕

10月27日、アクロス福岡シンフォニーホールで九州交響楽団によるクラシックコンサートが行われ、県内小中学校6校約530名の児童生徒及び教職員が参加しました。

プログラムは、チャイコフスキーのバレエ音楽「白鳥の湖」やディズニー映画「アナと雪の女王」のメドレーなど児童生徒にもなじみのある楽曲を中心に構成されていきました。演奏の合間に、指揮者の中井章徳氏から楽器や作曲家に関するエピソードについて解説していただくことで、児童生徒がクラシックの曲に親しみをもつて聴くことができました。また、福岡市出身のピアノリスト、田中正也氏にピアノ・ソロを披露していただきました。

今年の指揮者体験は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは異なり、参加者全員が各座席で中井氏から振り方のレクチャーを受けながら行う形式で実施しました。指揮に合わせてオーケストラのテンポや音の強弱が変化する様子に、子ども達も興味を持ったようでした。終了後、「指揮一つ一つの動作に意味があり、どれも大切だと教わった」「動画で見るのはレベルが違っていて、実際に体に音がぶつかってくるような感覚がした」などの感想が聞かれ、生の演奏を間近で聴き、多くの子ども達が音楽に興味を持ったようでした。



演奏の様子

県の事業

○ふくおか県民文化祭「芸術体験講座」

〔趣旨〕児童生徒に様々な伝統文化や芸術文化を体験させることを通して、豊かな人間性と多様な個性の育成を図ります。

〔実施報告（上毛町立唐原小学校）〕

9月25日に、officeトウルースの石堂隆之（テバツタ）氏を講師に招いてマジックの体験を行いました。目の前で見るマジックに、子ども達は興味津々で、始まる前から目をキラキラさせていました。

開演時は、液体の色が変わったり、お札の種類が変わったりする様々なマジックを目の前で披露していただき盛り上がりました。マジック体験では、毛糸の色が一瞬で変わったり、輪ゴムが瞬間移動したり、3色のクリップの色を見ずに当てたりするマジックを教わり、教わったマジックと同じ材料で子ども達はうれしそうにマジックにチャレンジしました。タネ明かしだけでなく、マジック時の心構えや、見抜かれないポイントも詳しく教えてくださり、マジシャンという職業に興味を持つ児童もいました。

子ども達からは、「マジックのときは、タネがわからない様に、面白い顔をしたり、しゃべったりして観客の気をそらすことが大事だと思った」「マジックは人を笑顔にすることがわかった。教えてもらったマジックを下級生に見せて、喜ばせたい」といった感想が聞かれました。



手品のタネ明かしを聞く子ども達

子どもたちの健全な育成を目指して 地域・学校・家庭等との連携

久留米市津福校区まちづくり協議会

1 はじめに

津福校区は、久留米市街地の西南部に位置しています。昭和53年4月1日に津福小学校の新設に伴い、鳥飼、安武、大善寺、荒木、南の5つの小学校から分離・独立してできた校区です。5,565世帯、12,306人。自治会数は11。津福小学校児童数653人。高齢化率は25・5%となっています。(令和2年4月1日現在)

津福校区のまちづくりは、「安全で安心な元気あふれるまち・笑顔があふれる明るく住みやすいまち」を実現することを目標とし、専門部会を中心に、地域全体で取り組んでいます。特に、子ども向け事業、自主防災活動、高齢社会に向けての活動に力を入れています。

本稿では、子どもの健全な育成における具体的な取組についてご紹介します。

2 子どもの育成における具体的な活動

(1) 津福校区アンビシャス(子ども)広場

子どもたちの豊かな個性を尊重し、その能力

や可能性を伸ばしていくための社会体験や生活体験、地域の子どもの居場所づくりとして、アンビシャス(子ども)広場を実施しています。具体的な取組として、グラウンドゴルフ、キャッチボール、コーラス、将棋、ドラム、皿回し、和太鼓、書き方、茶道、民謡、スポーツ、折り紙の12の教室があり、継続的に活動しています。

また、合同イベントとして、パルキッズ久留米大学(主に小学生を対象に、勉強や遊びなどを通して、社会体験や生活体験の場を提供する久留米大学のサークル)と連携して、次のような取組を実施しています。

① 夏休み宿題塾

夏休みの6日間程度、パルキッズのメンバーが中心となって夏休みの宿題等の学習支援を行っています。最終日には、お楽しみ行事として、そうめん流しを実施しています。

② 子ども広場宿泊体験

夏休み中に、市内の公共施設を利用して、1泊2日の宿泊体験事業を実施しており、地域ボ

ランティアスタッフとパルキッズのメンバーが連携して、企画・運営を行っています。現地への交通手段は、公共交通機関を利用します。また子どもたちが自分たちでメニューを考え、買い物をし、調達したものを使って調理を行います。さらにレクリエーション等で仲間同士の絆を深めていきます。

③ クリスマス発表会

12の教室で活動している子どもたちや地域の方がコミュニティセンターに一堂に集まり、日頃の学びを発表する場です。それぞれの教室で学んでいることを説明したり、実演したりしています。最後にお楽しみ会として、パルキッズのメンバーがゲーム等の企画を実施し、地域の子どもと大人が繋がる大切な場になっています。



和太鼓の演奏(クリスマス発表会)

④子どもフェスタ

津福小学校とコミュニティセンターを会場に、小学生を対象としたフェスタを実施しています。フェスタでは、ものづくりブース、飲食ブース、また、働くブースを設けています。働いた対価はフェスタの中で買い物ができる仕組みもつくっています。

(2)トント(津福校区家庭教育推進協議会)の取組

トント(TNT)とは、トレジャー(Treasure)、ネットワーク(Net work)、津福(Tsubuku)の頭文字を取って名前を付けました。『子どもは地域の宝物』を合言葉に、地域・津福小学校・PTAで協議会をつくり、次のような活動を行っています。

①早起き昔あそび

毎月第2、第4金曜日の8時～8時20分に、小学校体育館で、地域の方や先生、保護者の支援により、コマ回し、おはじき、けん玉、長縄、竹馬など、子どもたちに昔あそびの場を提供しています。毎回100名程度の子どもたちが参加しています。



けん玉あそび(早起き昔あそび)

②親子学習会

夏休み期間に、親子一緒に大型バスを利用し

て、様々な場所で社会体験や生活体験を行っています。

令和元年度は、添田町の「福太郎めんべい工場」、門司区の「九州鉄道記念館」に行きました。福太郎めんべいが作られる工程や、九州の鉄道の歴史を学び、シュミレーターでの運転体験など、とても有意義な一日を過ごしました。

③親子イベント

毎年、親子で一緒に体験できる学習活動を計画しています。

令和元年度は21家族53名の参加がありました。地元の「さくらみそ食品(株)」から講師を招き、みそ作りを体験しました。みそ作りの後には、トントで準備しただご汁を食べて楽しい時間を過ごしました。

④情報発信

子育てに関する情報として、「トント通信」を発行しています。(年3回)

「早寝・早起き・朝ごはん」の取組として、子どもが自分で作ることができるメニューを紹介したり、「子育てに関する相談窓口」の情報を掲載したりするなど、子育て中の親がいつでも利用できるネットワークづくりを目指し、タイムリーな情報を発信しています。

(3)地域ボランティアの取組

①放課後学習見守り

久留米市が行っている「学力アップ推進事業」の一環として、地域ボランティアによる放課後学習の支援を行っています。毎週金曜日の

放課後30分間、コミュニティセンターで、希望する小学2年生を対象に、算数の基礎学力の向上と学習習慣の定着を図っています。

令和元年度は66名が参加しました。学習で使用する教材は、学校と連携し、学習プリントを準備しています。地域ボランティアアスタツフは、現在30名程度が登録しており、毎回15名程度が活動しています。ボランティアアスタツフは、個に応じた指導やプリントの採点などの学習支援のほか、挨拶や靴をそろえるなど、生活習慣の支援も行っています。

②図書室の見守り

子どもたちが、登校後すぐに図書室が利用できるように、毎週月、水曜日の7時30分から8時30分まで、地域ボランティアアスタツフが小学校図書室を開け、読書ができる環境を整えています。

3 おわりに

同じ地域に住むことになった様々な人たちが相互の親睦を深め、安全で安心な元氣あふれるまち、住みよいまちにしていくなために活動しています。子どもたちの健全な育成は、日頃からの活動の中で成り立っています。

ボランティアアスタツフの不足が課題ですが、ボランティアの役割や活動の内容についてお知らせし、ひとりでも多くの方に関わっていただけるように発信し続けていきます。

新しい時代を拓き社会の発展に寄与する人材の育成 春日学術研究会の取組

福岡県立春日高等学校



はじめに

福岡県立春日高等学校では、将来国際社会で活躍する生徒の育成を目指して、平成25年度に「ノーベル賞の世界へ跳び込んでみよう」という独自のプロジェクトを立ち上げ、その一環として、平成27年度に「春日学術研究会 K I A (Kasuga Institute of Academics)」を発足させました。現在は、理系の学問分野を探究する N S E (Natural Science and Engineering) コースとグローバル人材に必要なスキルを身に付ける A E (Advanced English) コースの2つのコースに分かれて活動しています。

1 これまでの取組

(1) N S E コース

検定受検のほか、東京大学、京都大学、九州大学の事業を活用し、生徒一人一人が興味の幅

を広げています。「科学」「数学」などの分野にとらわれず、学びを広げたり深めたりできることが特長です。

特に、本年度は A E コースとのコラボが実現しました。ディベート大会の論題が、エネルギー問題に関わる内容であったため、N S E コースの生徒がデータ収集の一端を担いました。自分が提供した情報を活用することによって、ディベートの立論が組み上がっていく場面に出会い、「さらに学びたい」と実感したとのことです。生徒の要望に応える形で、再生可能エネルギーと技術開発について、「消毒・マスク・換気」の感染対策を施した上で、セミナーを実施しました。

2学期は大学の事業を活用し、オンライン講義を受けたり、研究室訪問をしたりしています。生徒は、オンライン講義のテーマとして、「ウイルス」「S D G s」など、話題性のある

テーマを選びました。また、隣接する

九州大学を訪問し、

研究室の見学・講義

受講をしました。

10月には、材料科学

研究室を訪問しま

した。生徒は、試料

が予想外の反応を

する実験を驚きの表情で観察していました。生徒には、事前調査を行うことと、事後に活動内容を記録し、ポートフォリオとして蓄積することをルールにしています。生徒は、それぞれの活動が次の学びに、さらには、自分たちが生きていく社会につながっていくことに気づき始めています。



九州大学訪問での実験

(2) A Eコース

週2回の活動で、

主に英語ディベートを行い、平成29年度から毎年、福岡県高等学校英語ディベート大会に出場しています。この大会で



ディベート大会

は、論題として時事問題を扱う高度なアカデミック・ディベートが行われるので、データを収集し、エビデンス・カードを作成して臨みます。令和元年度の第18回大会では、チームAが19チーム中6位、英語科設置校を除くと1位という好成績を収めました。学校行事では、平成29年度には本校40周年記念ステージという大舞台にて、また、平成30年度と令和元年度の春日祭（文化祭）にて、全校生徒の前で英語ディベートを発表しました。本年度は、3密対策としてYouTubeで配信しました。論題は「Japanese government should ban production and sales of fossil-fueled cars, including hybrid cars. by 2035.（日本政府は2035年までにハイブリッド車を含む化石燃料車の製造と販売を禁止すべきである。）」です。また全国英語教育研究団体連合会（全英連）主催の全国高等学校生徒

英作文コンテストでは、平成29年度1名、平成30年度2名、令和元年度2名が入選しました。

また、国際的な視野を身に付けるために、九州大学総合理工学府外国人留学生会（KIISA）の協力を得て、交流活動を行っています。各国の国際化の現状について英語でディスカッションを行ったり、研究室を訪問し実験を見学したりしています。春日祭（文化祭）では、英語ディベート発表の審査・講評をしていただき、指導を受けました。過去4年間に交流に参加した留学生の出身国は、イギリス、フランス、ポーランドなど15か国を数えます。今年度9月には、生徒1名が、自粛期間中の日本での生活について、留学生の2名とZoomを用いて英語でオンライン・インタビューを行いました。「外国人ということで真っ先にアルバイト先から解雇されてしまったが、別の地元企業がすぐに雇ってくれた」というエピソードを聞くことができました。航空業界を志望する本校生徒は「帰国時に乗り継ぎしやすいフライトスケジュールを組んでほしい」との要望を受けました。継続して活動に参加し、生徒の経年変化を知る留学生も多いため、的確なアドバイスを受けることができます。また、研究者や教育者を目指す高い志を持った留学生から、大学や大学院について

学んでいます。イスラム教、ヒンズー教、キリスト教など多様な宗教的背景を持つ学生と直に触れ合い、これからの多文化共生社会に必要な異文化理解の素養を身に付けています。

2 今後の課題

NSEコースでは探究活動を積み重ね、学びを深めていくことを、AEコースではデータ収集・分析スキルを高めることを目指しています。また、NSEコースとAEコースが協働することによって、お互いの学びを深める機会を増やしていきたいと考えています。これらの活動について、校内で発表したり、身に付けた力を活かしたりすることを通して、春日高校全体の発展に貢献することも、今後の課題です。

おわりに

本校は、令和2年11月に春日市と「包括的連携協定」を結びました。春日市と多様な分野で連携・協力し、将来の地域社会を担う人材の育成を目指します。これまでも行ってきた小中学生への学習支援活動に加え、より広範囲な分野での連携事業に取り組みます。春日学術研究会でも、この連携・協働の中でどのような活動ができるか、模索中です。

県立学校の
特色ある取組

地域に根ざす学校づくり （連綿と続くボランティア活動の取組とその成果）

福岡県立八幡工業高等学校



はじめに

本校は創立85周年を迎える専門高校です。機械系・電気系・土木系の3つの系があり、現在、生徒約600名が在籍しています。地元北九州はもとより、全国で日本の産業を支える人材の育成を目標に、日々の学習を通して技能・技術の習得を目指すとともに、「地域に根ざす学校づくり」をスローガンに、様々なボランティア活動にも力を入れています。

平成3年に文部省から「社会福祉協力校」の指定を受け、現在は「未来を作る人材育成事業」として、産学官連携しての地域貢献活動に取り組んでいます。

昨年度、これまでの活動の成果から「令和元年度未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」内閣府特命担当大臣表彰を受けることができました。

した。

今回は八工（はちこう）（注1）が四半世紀を超えて活動してきた地域貢献事業と地域連携事業の2つを御紹介します。

注1 八工（はちこう）…八幡工業高校の略称

1 これまでの取組

(1) 地域貢献

事業

地元にあされる学校づくりの観点から、地域の活性化を目的として、北九州市と連携・協力して、様々なイベントに参加して



灯籠黒崎宿場まつり

きました。かつて長崎街道の宿場町であった地元黒崎で開催される「黒崎宿場まつり」には、

学校紹介ブースを出店したり、街道を飾る灯籠を生徒が製作したりと、ものづくりの技術を生かす貢献ができています。中でも、畳1枚分の大きさのベニヤ板120枚で城のパネルを製作した「黒崎一夜城」は新聞やテレビ番組にも取り上げられ、好評を博しました。そのほかにも駅前や近隣商店街を飾るクリスマスイルミネー



黒崎一夜城

ション製作や、市民センターでの各種行事では、会場設営のボランティア活動を継続的に行っています。

(2) 地域連携事業

学校周辺の市民センター及び高齢者支援センターとも連携して地域と関わり、コミュニティの再生に貢献しています。学校周辺には約200世帯の独居高齢者が在住しています。そうした高齢者世帯の支援を目的として、「お年寄り助け隊」と称して様々なボランティア活動を展開しています。具体的には工業高校で習得した知識・技術を生かして、高齢者宅の補修や電気機器の修理、庭や外構の整備等を行っています。近隣の市民センターを通じて事業の案内をしており、年々依頼者も増えてきました。参加した生徒は、高齢者とのふれあいを通して思いやりの心や、感謝されること



八工ハッチの着ぐるみ

で自尊感情が育まれています。

また、3年前、イメージキャラクター、通称「八工ハッチ」の着ぐるみを生徒自ら製作し、校内外のイベントに参加し、PR活動に努めています。

平成28年、工業高校での学びを紹介したいとの思いから、「八工ハッチ・チャレンジプロジェクト」をスタートしました。長年、「洞南健児教室」との名称で、夏休みを利用して近隣小学生を対象に学校開放講座を開催していました。その後継として開講するこのチャレンジプロジェクトでは、受講対象を限定せず、小学生から大人まで、あらゆる年齢の方を対象としました。そして、八工の生徒が指導の補助として参加しています。生徒は、工業高校での学びを伝えることに留まらず、日頃の授業で学んでいる安全の大切さ、技術を指導することの難しさ、作品ができていく喜び等を感じ取るなど、自身の学びの深化にもつながっています。

2 今後の取組と課題

(1) 八工ハッチ製作のノウハウを生かした着ぐるみ製作交流

八工ハッチの着ぐるみを製作した技術を他校

の生徒に指導することで、ものづくりの楽しさを伝えます。そこで他校生徒との交流が生まれ、近隣の学校が連携して地域での活動をさらに活発に盛り上げることができると考えます。

一つの高校だけではできないことも、いくつかの学校が集まれば可能になることもあると思っています。

(2) 新型コロナウイルスと来年度に向けた取組

「お年寄り助け隊」や「八工ハッチチャレンジプロジェクト」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は中止を余儀なくされました。様々な制約のある環境で、どのような活動ができるのか、新たな生活様式に対応した形での取組を今後模索していきます。

おわりに

昨年度は素晴らしい賞を受賞することができましたが、これからも、さらに変化してゆく社会情勢に対応しながら、継続して、地域に根ざし、地域に愛される学校づくり、また、「ものづくり」教育を通した「ひとつづくり」で地域連携を強化し、学校の魅力を発信していきます。

新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育実践

振り返りを通して自立した学習者を育てる ～ICTを活用した授業改善～

福岡県立中間高等学校



はじめに

創立38年を迎えた本校は、「向学・忍耐・敬愛」の校訓を教育の理念とし、生徒の生活習慣の指針として「不易五項目」（挨拶の励行・掃除の徹底・ものを大切にすること・時間厳守・話を謙虚に聞く）を掲げ、これを日々実践することで、「志を持って意欲的に学び、自立・心と思いやりの心を持つたくましい生徒」の育成を目指しています。

1 これまでの取組

(1) 研究テーマ設定の理由

研究テーマ設定に当たり、生徒の実態や授業アンケートから今後の改善点について分析を行いました。生徒側の改善点としては、与えられた学習課題等については取り組むことはできているので、さらに自ら率先して主体的に学習に

取り組むことのできる生徒を育成することであり、教員側の改善点としては、生徒の理解度・課題について把握して「生徒が主体的に学ぶ」授業の手法が十分に確立されていないということが挙げられました。これらを踏まえ、本研究のテーマを「振り返りを通して自立した学習者を育てる～ICTを活用した授業改善～」とし、振り返りを通して生徒が自身の理解度や問題点に気づく機会を設ける等、主体的に学習に取り組む態度の育成を図ることをねらいとしました。

(2) プロジェクトチーム

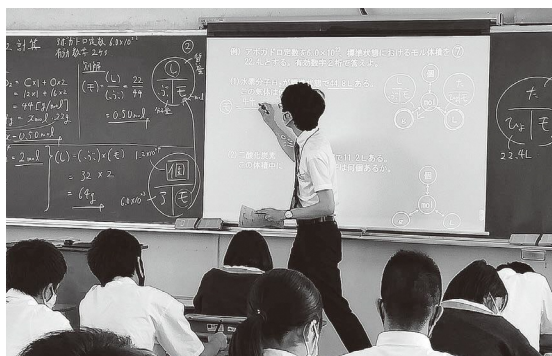
授業改善を学校全体の取組にするため、プロジェクトチームを組織しました。各教科から1人ずつメンバーに入ってもらうことで、研究の主旨に基づいた授業改善を教科に特化した、より具体的かつ実践的内容で行うことができるよ

うにしました。

(3) 相互授業参観

相互授業参観の取組は、研究テーマである「振り返りを通して自立した学習者を育てる～ICTを活用した授業改善～」を参観の視点として設定し、教員が相互に授業を参観すること

で、研究実践の検証につなげるようにしました。どのような内容で授業を実践するかを事前に全ての教員で共有できるように



ICTを活用した授業

に、職員室に掲示しました。参観は、「相互授業参観用のルーブリック(注1)」評価の記入と授業者は、「YWTフレームワーク(注2)」を活用し、授業改善の取組の成果と課題を整理しやすくし、次の授業改善につながるようにしました。

注1 ルーブリック：生徒の学習評価を行う際の

の評価の観点とその基準を書いた評価基準表のこと。

注2 YWTフレームワーク：日本能率協会

コンサルティングが提唱した振り返りの手法。(Yやったこと Wわかったこと T次にやること)

2 今後の取組と課題

(1) 成果について

「新たな学びプロジェクト」を推進していくに当たり、全ての教員が振り返りを取り入れた授業改善に取り組むことができ、その結果、生徒の変化から授業改善の効果を実感でき



授業でのグループワーク

たという意見が多くの教科から挙げられました。それらを大別すると、次の3つです。1つは生徒の学習内容の理解が深まったこと、2つは授業に対する積極性が高まったこと、3つは次の学習や発表に向けて学習意欲の高まりが見られたことです。

(2) 課題について

課題として挙げられたものは、次の3つです。1つは、振り返りを行う頻度と時間に関することです。振り返りに時間がかかり、毎時間振り返りシートを記入させることは、厳しいとの意見がありました。2つは、振り返りを行う際の観点に関するものです。教科科目ごとに、観点を吟味しないといけないという意見が多く聞かれました。3つは、生徒同士のペアやグループで振り返りを行う際の生徒間の理解度や自己評価のギャップについてです。教員の評価とかけ離れたものにならないようにする必要があることや、学習に対するモチベーションが低い生徒に対する対処などが課題として挙がりました。

(3) 次年度に向けて

① 生徒への働きかけの強化

自立した学習者となる価値や振り返り活動の意義について、生徒に更に周知し、生徒の振り返りの取組に対する意識を高めていきたいと考えています。

② 振り返りの場面の統一と振り返りシートの作成

調査後等、全ての教科科目で統一して振り返りを行う場面を設定し、使用できる振り返りシートを作りたいと考えています。

③ 授業参観用のルーブリックの見直し

自立した学習者を育てる振り返りを意図した、より活用しやすいものに改善したいと考えています。

おわりに

研究主題を踏まえた授業改善に向け、全教員で前進することができました。これからも1人の100歩より全員の1歩を大切に、取り組んでいきたいと考えています。

「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に 関する調査」結果と今後の取組

義務教育課

○ はじめに

児童生徒の生徒指導上の諸課題の状況については、文部科学省の「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」により把握し、その調査結果を本県における生徒指導・教育相談の施策に生かしています。

本稿では、令和元年度の県内公立小・中学校における「暴力行為」「いじめ」「不登校」の調査結果とそれぞれの課題に対する取組について紹介します。

1 暴力行為の現状と対応について

暴力行為は、「対教師暴力」「生徒間暴力」「対人暴力」「器物損壊」の4形態について調査が実施されており、小・中学校の発生件数は合計1206件で、前年度より130件減少しています。

小学校は438件で、前年度より4件減少し、中学校は768件で、前年度より126件減少しました。

小・中学校共に発生件数が減少しているのは、全教職員の共通理解・共通実践に基づく規範意識の醸成や校内規律に関する指導が充実し

てきたためだと考えられます。

本県の児童生徒1000人当たりの暴力行為の発生件数は、図1に示すとおり、小・中学校ともに全国より低い状況で推移しています。

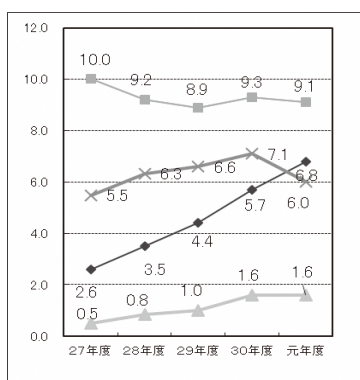


図1 1000人当たりの暴力行為の発生件数の推移

● 全国(小) ■ 全国(中)
▲ 福岡県(小) × 福岡県(中)
※ 福岡県・全国共に公立学校

暴力行為を未然に防止するためには、児童生徒一人一人が存在感をもち、共感的人間関係を育み、自己決定の場をもつような教育活動を推進し、児童生徒の自己指導能力を育成することが大切です。また、児童生徒が良好な人間関係を築くために必要なソーシャルスキルを高める指導や、児童生徒相互が学び合うグループ学習、自己有用感を感じさせるピア・サポート活動、道徳の時間を中心とした心の教育等を学校として組織的・計画的に推進していくことが効

果的です。

暴力行為への対応については、引き続き全教職員が協力し一貫した指導を粘り強く行うなど毅然とした態度で対応することが重要です。また、再発防止に向け児童生徒の内面に迫る指導も必要となります。

なお、学校の秩序を乱し、他の児童生徒の学習を妨げる暴力行為に対しては、児童生徒が安心して学べる環境を確保するため、十分な教育的配慮の下、警察及び地域の関係機関と連携した取組、出席停止や懲戒等の措置を行うなど、個に応じた指導ができる体制を整えておく必要があります。

2 いじめの問題の現状と対応について

小・中学校のいじめの認知件数は合計11392件で、前年度より799件増加しています。

小学校は8616件で、前年度より478件増加しました。中学校は2776件で、前年度より321件増加しました。

小・中学校共に認知件数が増加したのは、各学校がいじめ防止対策推進法で定められた定義に基づき、初期段階のものも含めて積極的に認

知し、「いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりうる」との危機意識をもち、軽微な事案も見逃さないようにした結果です。

本県の児童生徒1000人当たりのいじめの認知件数は、図2に示すとおり、全国より低い状況が続いています。

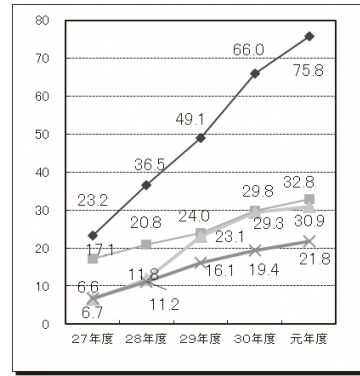


図2 1000人当たりのいじめ認知件数の推移

● 全国(小) ■ 全国(中)
▲ 福岡県(小) × 福岡県(中)
※ 福岡県は公立学校、全国は国公立学校

1000人当たりのいじめ認知件数が、全国より低いことについては、学校でのきめ細かな未然防止、早期発見の取組を行うことによつて、いじめそのものの発生が減少していることも考えられますが、各学校においては、「いじめはどの子供にも、どの学校でも起こりうる」ことを再度認識し、児童生徒の生活や人間関係の状況を把握できるよう、いじめに特化した無記名アンケート、学校生活・環境多面調査等の調査や教育相談の計画的な実施を徹底する必要があります。また、県教育委員会としては、平成30年3月に最終改訂した「福岡県いじめ問題総合対策」に基づき、いじめを生まない教育活動の推進、いじめの早期発見、早期対応と継続的指導の充実、地域・家庭・関係機関との密接な連携を継続的に推進していく必要があると考えています。

市町村教育委員会においても「市町村いじめ防止基本方針」の改定、「いじめ問題対策連絡協議会」等の設置が進められています。

また、県内全ての公立小・中学校が「学校いじめ防止基本方針」を策定し、「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」を設置しています。

今後、これらの方針等に基づき、学校はもろろん、家庭・地域、関係機関等が連携し、いじめの防止、早期発見、いじめに対する措置について、社会総がかりで取り組んでいくことが求められています。

3 不登校の現状と対応について

小・中学校の不登校児童生徒数は合計8595人で、前年度より1380人増加しています。

小学校は2706人で、前年度より681人増加し、中学校は5889人で、前年度より699人増加しています。

小・中学校共に不登校児童生徒数が増加していることについては、全国と同じ傾向です。

本県の児童生徒1000人当たりの不登校児童生徒数は、図3に示すとおり、平成30年度に引き続き、小・中学校ともに全国を上回る結果となりました。

不登校については、「どの子供にも起こりうる」という基本認識に立ち、地域や関係機関等と連携し、児童生徒及び家庭への働きかけや支援を総合的に行うことが重要です。特に、心理や福祉の専門家であるスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用して、心の安定を図ったり、福祉関係の諸機関と連携し、

生活環境の改善を図ったりすることで、不登校の解消に向け取り組むことが必要です。

本県では、※「福岡アクション3」、「不登校対応マンツーマン方式」などの組織的な取組を推進するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等を活用した教育相談体制の充実を図っています。

また、不登校兆候を示した児童生徒に対しても、早期から組織的に対応し、不登校を生じさせない取組が重要です。

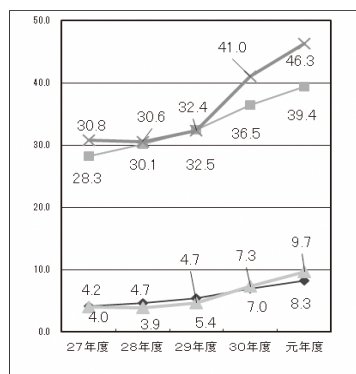


図3 1000人当たりの不登校児童生徒数の推移

● 全国(小) ■ 全国(中)
▲ 福岡県(小) × 福岡県(中)
※ 福岡県は公立学校、全国は国公立学校

○ おわりに

生徒指導を、総合的・組織的に推進していくためには、授業を含む教育活動・指導計画の更新と実施に伴う評価が重要です。各学校においては、「学校いじめ防止基本方針」や、生徒指導に関する取組等をPDCA(計画—実行—点検—改善)サイクルで常に見直し、児童生徒にとって効果的な取組へと改善していくことが大切です。

※「福岡アクション3」とは、不登校対策の3つの視点(未然防止、早期発見・早期対応、不登校児童生徒への支援)に基づき、学校で重点的に取り組むべきことを整理したものです。

ふくおか教育月間イメージキャラクター 「ミライル」の紹介

総務企画課

イメージキャラクターが誕生しました

福岡県教育委員会では、毎年11月を「ふくおか教育月間」とし、県民の皆様にもたちの教育への関心や理解を深めていただく取組を行っています。

この取組をより多くの方に知っていただくために生まれたイメージキャラクター「ミライル」を紹介します。

ミライルは、これから社会に羽ばたく子どもたちの「翼」をイメージした妖精です。

東京2020オリンピック・パラリンピック公式マスコット制作者で、福岡県在住のキャラクターデザイナー 谷口 亮 氏にデザインしていただきました。

名前は、県民の皆様にご公募し、500件近い応募の中から、福岡市立田隈中学校3年生 田中 亜弥 さんが考えた「ミライル」に決定しました。笑顔（スマイル）が溢れる未来（ミライ）に羽ばたいてほしいという願いが込められています。

キャラクターの使用について

ミライルは、県教育委員会以外の団体等でも使用できます。詳しくは、県ホームページに掲載されている「ふくおか教育月間」イメージキャラクター使用取扱要領をご覧ください。

【ポーズ集】



県ホームページ「ふくおか教育月間」について
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kyouikugekkan.html>

あなたの学校や地域に体験活動を届けたい！ ふくおか体験活動出前隊

福岡県立社会教育総合センター
福岡県立英彦山青年の家
福岡県立少年自然の家「玄海の家」

はじめに

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、青少年教育施設を利用した宿泊体験学習がほとんどの学校で中止、延期もしくは内容の変更を余儀なくされました。

そこで県立社会教育施設である社会教育総合センター、英彦山青年の家、少年自然の家「玄海の家」が共同で「ふくおか体験活動出前隊」事業を立ち上げました。この事業は、派遣依頼のあった学校や地域に施設職員が出向き、体験活動プログラムを提供するもので、国立夜須高原青少年自然の家とも連携して実施しています。昨年9月の募集開始と同時に多くの問い合わせがあり、これまでに50以上の学校・団体から申し込みをいただいています。学校等の求めに応じて、仲間づくりや野外炊飯、クラフト活動等子どもたちを直接指導しています。

各社会教育施設における主な活動 (1) 県立社会教育総合センター

同施設では、福岡市内の小学校に出向き、焼き芋体験、仲間づくり体験を提供しました。ファイヤースターターや簡易かまどを使った焼き芋体験は、どれも子ども達にとって初めての体験で、「火が消えそうだけど大丈夫かな」「火

が大きすぎる！あついでー」と、火力の調節に苦労しながら楽しむ姿が見られました。



焼き芋体験

(2) 県立英彦山青年の家

同施設では、小学校を中心に出向き、野外調理や英彦山の枝木を使った写真立て作り、仲間づくり体験等を提供しました。特に、野外調理では、杉の葉や枝を使った火起こし体験を行い、その火を使ってホットドッグ作りやカレー作りを行いました。自然体験活動を通して、仲間とのコミュニケーションを図りながら、協力して取り組む姿が多く見られ、絆の深まりを感じることができたようです。



写真立て作り

(3) 県立少年自然の家「玄海の家」

同施設では、糟屋郡内の小学校で実施された「防災キャンプ」の中で、防災について体験を通して学ぶ「玄海防災プログラム」を、提供し

ました。

子ども達は、段ボールパーテーションを使った避難所づくり体験や牛乳パック食器づくり、防災クッキング等の活動を通して学びを深め、「もしもの時に学んだことを生かしたい」と感想を述べていました。



避難所づくり体験

おわりに

子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります。次年度も本事業を実施してまいりますので、ぜひ御活用ください。

あなたの学校や地域に体験活動を届けたい！

ふくおか体験活動出前隊

仲間づくり体験
クラフト体験
野外炊飯体験

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、子どもたちへの参加が難しくなっています！

詳しくは、ふくおか社会教育ネットワーク <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/>

▼本事業に関する詳細についてはふくおか社会教育ネットワークホームページに掲載しています。こちらを御参照ください。
<http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/>



特色ある
学校教育活動

「多文化共生のキャリアキュラム開発」の取組

福津市立福間小学校



はじめに

福岡中学校区（福岡小、福岡南小、福岡中）では、「福津を愛し、健やかで、未来に向けて意欲的に学ぶ子どもの育成」を共通の教育目標に設定し、地域と共にある学校「コミュニティ・スクール」として教育活動に取り組んでいます。

平成30年度から2年間、文部科学省の「人権教育研究指定校事業」を受け、外国人に関する人権課題の解決に向けた効果的な指導方法を研究・実践し、それらを位置付けたキャリアキュラムを開発してきました。その取組を次に示します。



写真1 学校全景

1 研究テーマについて

福岡小学校区は現在人口が急増し、校区内には様々な国にルーツをもつ子どもが在籍しております。日常会話や学習言語、日本文化や風習等を毎週の指導で学び、児童の学校生活や日常生活での不安感の解消に役立っています。

しかし、文化の違いによるすれ違いやトラブルなど、依然として課題もあり、違いを認め、互いの人権を大切にしながら共に生きていこうとする態度を身につけさせる研究や実践が必要であると考へ、研究テーマを「外国にルーツをもつ児童を取り巻く人権課題の解決に向けた共生できる児童を育てるキャリアキュラム開発に係る研究」に設定しました。

2 キャリキュラム開発について

2年間の研究で、全学年に位置付けるキャリアキュラムを開発しました。下記に示すのは、2年生のキャリアキュラム例で、★は実践した授業モデルです。多文化共生の理解を促すことをねらいとして、関係する教科等において、効果的に指導を行っています。さらに、多文化共生の理解につながるように、「出会いの活動」を教科等横断的に、そして系統的に全学年に位置付けました。「出会いの活動」とは、児童が外国の文化のよさを知るために、外国の方や外国に住んだ経験がある日本の方を学校に招いて、現地の学校生活や食べ物などについて話を聞いたり、外国の遊びを体験したりする学習活動です。次頁に多文化共生の授業モデルと「出会いの活動」の概要を載せています。

----- 多文化共生の授業モデルと「出会いの活動」
 その他、多文化共生に関連する教科等及び「出会いの活動」

学年	月	教科等	多文化共生の授業モデル	「出会いの活動」
2年	5	<音楽> うたでもだちの わを広げよう		
	7		りつとにじのたね	
	9		ながいながいつがくる	
	10	<音楽> ひょうしをかんじ てリズムをうとう	ひろいせかいのたくさんの人たちと (国際理解・国際親善) ★	外国の方に聞いてみよう
	12			
	1	<国語> おにごっこ		いろいろな国の遊び
	2	<国語> スーホーの白い馬		
	3			モンゴルの文化に触れよう

2年生のキャリアキュラム例

【主題名】「ひろいせかいのたくさんの人たちと」

【ねらい】

世界のいろいろな国の人々や文化に親しもうとする心情を育てる。
（人権教育を通じて育てたい資質・能力「価値的・態度的側面」）
人々の文化には多様性があることを知り、お互いの違いを認め合
いながら、ともに生きようとする心を育てる。

【学習活動】

- ① 「ひろいせかいのたくさんの人たちと」を読んで話し合う。
- ② ほかの国の文化や伝統の文化を知る大切さを話し合う。
外国の食文化の紹介

- ・ 日本の食と似ているところや違うところを挙げる。
- ・ 世界の3大食法を知る。

- ③ 「たけし」がなぜ、「うれしい」「おもしろい」「びっくりした」と
思ったのかを考え交流する。

- ④ ほかの国の文化や伝統を知る大切さを話し合う。

- ⑤ まとめ

- ⑥ 振り返り

【活動の様子】

○ 外国の食文化について紹介したことで、「違うことが面白い」と
とらえることができた児童が多かった。あたりまえだと思ってい
た箸の文化も、世界で見るとそうではないことに気づくことがで
きた。

【まとめ】

○ 日本ではあたりまえだと思っていたことが、外国ではそうではな
かったり、国によっていろいろ違ったりすることを知ることがで
きたことは本学習の成果と言える。

【題材名】「外国の方に聞いてみよう」（写真2）

【ねらい】

日本に住む外国の方との交流を通して、外国の方から見た日本と
の文化の違いについて話を聴き、外国の方の感じ方や考え方にふれ
て共感的に理解することができる。

（人権教育を通じて育てたい資質・能力「価値的・態度的側面」）
他者に興味関心を持ち、よりよい関わりをしようとする。

【学習活動】

- ① あいさつ
- ② ゲストティーチャー（以下、GT）の紹介
- ③ 自分の国と日本との文化の違いについての話

- ・ 日本の文化で驚いたこと（自分の国との違いを入れながら）
- ・ 日本の文化ですてきたなど思ったこと
- ・ 日本で困ったこと

- ④ いっしょに遊ぼう（その国のあそび）

- ・ ジェンズ（羽根蹴り）の実演（写真3）及び体験

- ⑤ 質問タイム

- ⑥ 振り返り

【活動の様子】

○ GTに来ていただき、外国と日本の違いについて驚いたことやす
てきに感じたことを話してもらった。その後、ジェンズ（羽根蹴
り）の体験があった。実際にやってみて、蹴り上げる動作に難し
さを感じていたが、うまくいくと楽しさを味わっていた。

【まとめ】

○ GTから直接話を聴いて、改めて日本と外国の文化の違いを知る
ことができた。

○ 外国の遊びをGTと一緒に体験することで、「外国の方ともっと
関わりたい」、「もっといろいろなことを知りたい」という興味関
心の幅が広がった。

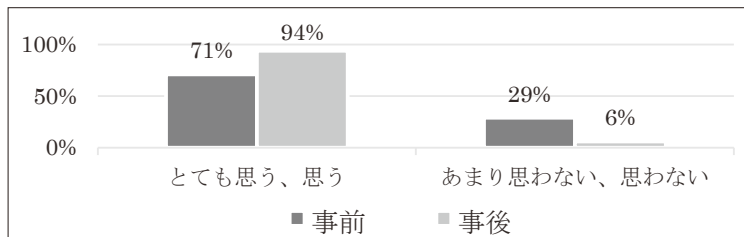


写真3 ジェズ（羽根蹴り）の実演

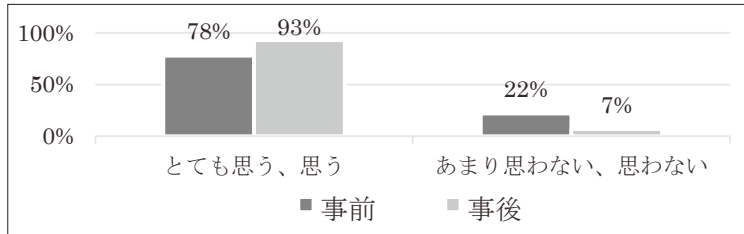


写真2 出会いの活動

【世界の国について、知りたいと思いますか？】



【世界の国の人とも、友だちになってみたいですか】



2つの事前と事後のアンケート（グラフ）の変化を見ると、興味関心の割合が高まっただけでなく、世界のほかの国のことや友だちになり

3 児童の変容

2年生「ひろいせかいのたくさんの人たちと」
 「出会いの活動」…外国の方に聞いてみよう」

2年生の実践授業
 事前・事後アンケート（グラフ）

たい理由を感想文に書いている児童も増え、興味関心の幅も広がったと言えます。

「出会いの活動」においては、GTや通訳の方から国の違いについて話していただきたいり、児童にとって興味の高い遊びを一緒に体験したりすることで、「外国の方ともっと関わりたい」「もっといろいろなことを知りたい」という興味関心の幅を広げることができました。

おわりに

2年間の研究指定を受けて、はじめは多文化共生とは何かについて改めて学ぶために、教職員の研修を実施しました。GTとの打合せや外国人支援スタッフの講話、日本語指導員による具体的な支援方法などの基本的な内容をはじめ、実効性のある具体的な指導まで幅広く研修することができました。職員からは、「自分自身の人権感覚を磨く」「気づきの幅を広げる」という感想があり、多文化共生のカリキュラム開発のヒントにつながったと思います。

外国にルーツをもつ児童を含め、学校には様々な支援を必要とする児童がいます。一人一人の個性や教育的ニーズを把握し、学習意欲を高め、指導の充実を図るために、教職員一人一人が研究で培った知識やスキルを基にして、児童の実情に十分配慮しながら指導を行っていくよう人権教育をさらに推進していきます。

世界の舞台で輝け！県内高校生アスリートの挑戦

トップアスリート育成強化事業を通して

体育スポーツ健康課

はじめに

昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大は、国内外のスポーツ界に大きな影響を与えました。心待ちにしていた東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期をはじめ、様々なスポーツ大会の中止や延期が続々と発表されました。このような中でも、世界の舞台での活躍を夢見る県内の高校生アスリートは自己研鑽を続けています。ここでは、そのような県内高校生アスリートを支援する「トップアスリート育成強化事業」の概要や、令和2年度に認定された強化指定選手を紹介します。

1 「福岡県スポーツ推進計画」から

福岡県スポーツ推進計画後期計画（平成30年度策定）では、アスリートの競技力向上について、「多くの大規模スポーツ大会において、本県ゆかりのアスリートが優秀な成績を収めていること」が目標のひとつとして謳われています。オリンピック・パラリンピック等の大規模スポーツ大会で活躍する本県ゆかりのアスリートの姿は、県民に夢や感動を与えてくれるもので

あり、未来ある子どもたちにとっても、素晴らしいスポーツシーンを伝え続けていくことにつながります。これは、「福岡県のスポーツをより元気に、スポーツの力で福岡県をより元気に」を基本理念とする「スポーツ立県福岡」の実現に寄与するものであると考えています。

そのため、県教育委員会では、平成29年度から県内競技団体と連携し、本県高校生アスリートの強化活動に対する支援等を行う「トップアスリート育成強化事業」を行っています。

2 「トップアスリート育成強化事業」

ユース

今年で4年目となる本事業は、オリンピック競技である水泳や陸上競技など36の県内競技団体等から推薦された「将来、オリンピック等へ出場可能性が高い県内高校生アスリート」を対象としています。そして、推薦された選手の中から「強化指定選手」として認定された者に対して、海外遠征等に係る経費の補助を行っています。

これまでに認定された強化指定選手は、のべ233名にのぼり、その中には、柔道競技で東

京オリンピック出場内定を決めている素根輝選手（南筑高校卒）や、卓球競技で令和元年度に行われた全日本選手権で初優勝を果たした早田ひな選手（希望が丘高校卒）なども認定されています。



素根 輝 選手



早田 ひな 選手

3 「強化指定選手認定式」について

認定された強化指定選手に対して、福岡県を代表する高校生アスリートとしての意識を高

め、オリンピック等の国際大会出場への意欲の向上を図ることを目的に、「強化指定選手認定式」を実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止されましたが、昨年度の認定式では、福岡県選手強化推進実行委員会会長である上田哲子教育振興部長（当時）より認定証が授与され、強化指定選手を代表して、令和元年度に全日本選抜柔道体重別選手権大会の48kg級で優勝を果たした古賀若菜選手（南筑高校卒）が決意を述べました。さらに、前述で紹介した素根選手や早田選手から、アスリートとしての心構えや今後の目標等について、激励ビデオメッセージが会場で流されました。

その映像を見つめる選手の目は真剣そのもので、県を代表する高校生アスリートとして、また、日本を代表するトップアスリートとして活躍するための心構えを考えるきっかけとなりました。



強化指定選手認定式



古賀若菜選手の決意表明

4 「令和2年度トップアスリート育成強化事業強化指定選手」について

今年度は、54名が強化指定選手に認定されて

おり、それぞれの目標に向けて遠征合宿等を実施しています。（令和2年度トップアスリート育成強化事業強化指定選手一覧参照）

5 おわりに

「世界で戦うために必要なことを海外の強化合宿で学ぶことができました。支援してください、ありがとうございます。」

これは、海外遠征を初めて経験した強化指定選手が、報告書に書いた言葉です。

本事業を通して「世界で戦う」ことを感じる事ができたことは、この先、大きな意味を持ち、福岡県のみならず、日本の期待を背負って戦う姿へと繋がっていくと信じています。

令和2年度トップアスリート育成強化事業強化指定選手一覧		
競技	氏名	所属
スケート	高橋 花菜	九州産業大学付属九州高校
	垣波 武蔵	沖学園高校
	江川 マリア	香椎高校
水泳	竹原 秀一	東福岡高校
	萬燈 祐仁	福岡大学附属若葉高校
	三村 はるな	福岡大学附属若葉高校
	原 空輝	東福岡高校
	森田 眞心	福岡大学附属若葉高校
	小山 陽翔	東福岡高校
	岡 莉子	柳川高校
	宮崎 菜々子	筑陽学園高校
セーリング	永岡 祥	常盤高校
	松尾 勇輝	福岡第一高校
	安永 昂生	上智福岡中学高校
	濱田 登羽	福岡第一高校
テニス	毛利 咲絵	福岡第一高校
ホッケー	森田 隼介	柳川高校
バレーボール	新出 悠月	柳川高校
バスケットボール	田淵 絢音	玄界高校
	柳北 悠李	東福岡高校
	ハーバジャパン ローレンス ジュニア	福岡第一高校
	間山 柊	福岡大学附属大濠高校
	浅井 英矢	北筑高校
自転車	岩下 准平	福岡大学附属大濠高校
	斎藤 風香	精華女子高校
	金田 舞夏	祐誠高校
卓球	横溝 貫太	祐誠高校
	原田 春輝	希望が丘高校
フェンシング	道廣 晴貴	希望が丘高校
	佐藤 悠雅	西南学院高校
	平田 悠翔	福岡魁誠高校
	宮崎 孝司郎	福岡魁誠高校
バドミントン	室屋 奏乃	九州国際大学付属高校
ラグビー	本田 啓	東福岡高校
	吉野 遼	東福岡高校
	福井 蓮	東福岡高校
	寺下 功起	東福岡高校
	村尾 幹太	東福岡高校
	坂本 公平	東福岡高校
	久木野 太一	小倉高校
	大内田 夏月	筑紫高校
陸上競技	畑田 桜子	筑紫高校
	伊藤 彩香	青豊高校
	柳楽 あずみ	筑紫女学園高校
	梅野 侓子	宗像高校
ウエイトリフティング	花本 史龍	大牟田高校
	青木 龍翔	大牟田高校
馬術	浅野 太郎	八幡中央高校
ライフル射撃	上野 美緒	上智福岡中学高校
	小柳 勇生	太宰府高校
アーチェリー	松尾 隼月	太宰府高校
ゴルフ	宮下 昌大	柏陵高校
トライアスロン	長野 泰雅	沖学園高校
	山中 翔陽	宗像高校

本事業は、福岡県や県教育委員会、県議会において、「県内の高等学校で活躍するアスリートの力を最大限に発揮するために、何かできることはないか」と考え、その思いを形にしたものです。強化指定選手の皆さんには、海外遠征等での貴重な経験を通じて、自らの視野を拡げることや、世界中のトップアスリートとの出会いなど、普段できない経験を経て、競技者としても人間としても大きく成長してほしいと考えています。

そして、今後も本県の代表としての自覚と誇りを胸に、県民に勇気や希望、感動を与える真のアスリートとなることを期待しています。

令和3年度福岡県教育センター事業の紹介

福岡県教育センター

1 はじめに

平成29～30年度に策定された福岡県教職員育成指標、教職員研修計画に基づいて、教育センターでは、「福岡県教育大綱及び福岡県学校教育

育振興プランに基づき、

教育センター事業理念ロゴマーク

本県の学校教育の目標を達成するため、各学校等が、社会の変化や子供、学校、地域等の実態にに応じ、本県の特徴を生かした教育活動を自律的に創造及び推進できるように研修・研究・支援を中心とした事業を実施する」ことを主な役割と位置付け、各事業を推進していきます。

令和元年度から、「教職員一人一人の確実なキャリアアップ」と「教

職員や学校等の自律的で主体性のある研修・研究」の実現に資するために、『福岡県の教育の未来を学校現場の先生方と共に創る』というスローガンの下、研修・研究・支援といった主要事業に取り組んでいます。

2 教育センター経営の基本方針

- (1) 教職員一人一人のキャリアステージや職務に応じた資質・能力を育成するために、福岡県教職員育成指標を踏まえた研修を体系的かつ効果的に企画及び実施します。
- (2) 現代的な教育の課題や本県学校教育における教育課題及び経営課題に応じた研究を各研究指定校と協働して行い、地域の研究推進の拠点を創造するとともに、研究成果の県内学校等への発信及び普及を図ります。
- (3) 本県の教育施策や教育課題に応じた教育資料や書籍の収集・活用の促進及び最新の教育情報の発信並びにその他教育センターの教育資源を生かした学校等への支援を行います。

3 令和3年度事業の紹介

令和3年度は、ウィズコロナ・アフターコロナと言われる現在の社会状況を踏まえ、各事業の確実な実施を目指し、事業の内容と運営の更なる充実・発展のための準備を進めています。

その中で、GIGAスクール構想や福岡県学校教育ICT化推進計画に基づく学校教育のICT化推進は喫緊の課題です。子供たち一人一人の個別最適な学びによる、誰一人取り残さない教育の実現に向け、教育センターにおいても各事業でICTの有効活用を検討しています。

教育センターでは令和3年度の事業を計画するに当たり、ICTを活用した効果的かつ効率的な実施を目指した改善・更新を図っています。福岡県内の学校等においてもICT化が急速に進んでおり、子供たちだけでなく教職員一人一人のICT活用能力が向上する事業が求められています。

ここでは、令和3年度各事業の概要を紹介しますので、積極的に御活用ください。



【研修事業】

・基本研修

基本研修計画に基づき、学校種や経験年数、職務内容に応じて必要となる知識・技能等を習得し、教職員としての資質・能力の確実な向上を目指して実施します。令和3年度も、本県の教育課題に対応できるように研修の充実を図ります。

・専門研修（福岡教師塾）



引き続き多様な分野のトップリーダーを講師に迎えます。また、ICT機器を活用し、受講者が主体的・対話的に学ぶ企画・運営研修の質を更に高め、幅広い視座や視点から新しい学校の経営に携わるリーダーに必要な資質・能力の育成を図ります。

・専門研修（ミドルリーダー養成講座）



職務や学校種等に合った高い専門性とミドルリーダーとして学校や地域をけん引する資質・能力の向上を図ります。また、新たな講座の開設やオンライン研修の導入など、6講座を実施する予定です。

・専門研修（キャリアアップ講座）



講座案内は3月中に行います。令和3年度は講座編成や実施方法を大幅に見直し、現在の社会状況に対応できるようにオンライン研修を導入したり、関係機関と連携した講座を複数開設したりします。

・長期派遣研修

様々な教育分野の専門性を高め、学校及び地域等の研修や研究を推進できる実践的企画力・経営力・指導力を養成します。そのため、多様な分野の専門性をもつ教育センターの強みを生かした、教育センターならではの長期派遣研修を推進し、更なる充実・発展を目指します。

【研究事業】

令和2年度からは、これまでの調査研究に代わり、福岡県重点課題研究指定・委嘱事業及び福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」事業と連携した研究を行っています。県内各地域の研究推進の拠点の創造を目指し、研究指定校等への研究支援を行うとともに、その研究成果を積極的に発信していきます。

【支援事業】

学校等の自律的で主体的な研修・研究の実現を目指し「サポート・シリーズ」や「学習指導案データベース」の更なる充実を図ります。また、教育センターホームページでは、常時、最新の教育資料や教育情報を積極的に発信していきます。

令和3年度も教育センターが発信する成果物を積極的に御活用ください。

※今回掲載している専門研修の写真は令和元年度のものです。



教育センターホームページ
<http://www.educ.pref.fukuoka.jp>



福岡県教育センターホームページトップ画面

新型コロナウイルス感染症に対応した取組

福岡県体育研究所

はじめに

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、本所の専門研修（短期研修・断続研修）を中止せざるを得ませんでした。また、県内の各学校における教育活動にも様々な影響が及ぼしました。

今回は、本所が行った新型コロナウイルス感染症に対応した取組のいくつかを紹介します。

1 基本研修における感染防止対策や

研修形態の変更

(1) 小・中・義務教育・特別支援学校

若年教員研修1年目における第1回実施分については、「水泳指導の基本と安全（小）」「運動部活動における適切な指導と在り方（中）」等の研修動画・資料を県教育センターのホームページに掲載し、各所属校で研修が実施できるようにしました。第2回実施分については、

「運動領域の指導の実際（小）」「中学生の体力向上について（中）」等の実技を伴う研修を、感染防止対策を講じた上で集合研修で行いました。

(2) 県立学校

若年教員研修会・中堅教諭等資質向上研修会教科別等研修の中止となった内容については、研修計画を再編成して実施しました。

特に若年教員研修会1年目については、中止となった研修内容を補完することを目的として、学校のニーズに応じた支援事業を実施しました。初任者の各所属校で実施される研究授業において、指導案作成に係る指導・助言を行ったり、実際に指導主事を派遣して研究授業に対する指導・助言を行ったりしました。

2 情報発信

次の2点を中心にホームページを充実しました。

(1) 新型コロナウイルス感染症対策を講じた体育授業の運動例

児童生徒の運動不足やストレスを解消し、身の健康を保持したり、感染症対策の一つとして抵抗力を高めたりするために、児童生徒が運動する機会を確保することが重要です。

感染症対策を

講じた上で、「どのような工夫をしたら実施できるのか」、また「どのようにすれば、それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、その楽しさや喜びを味わわせることができるのか」

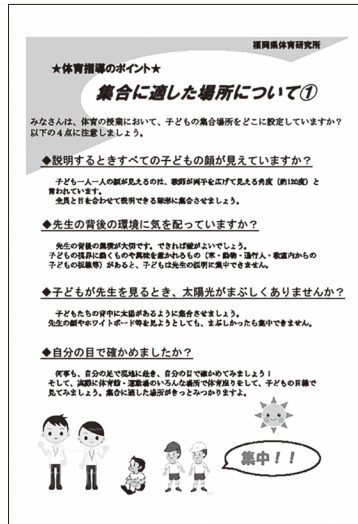


器械運動系 跳び箱運動

について検討する必要があると考えました。そこで新型コロナウイルス感染症に対応した体育の授業づくりの参考にさせていただくために、指導のポイントや留意点をまとめ、ホームページに「新型コロナウイルス感染症対策を講じた体育授業の運動例」を掲載しました。

(2) 体育指導のポイント

小学校若年教員等が体育の授業で役立てることができるポイントをまとめ、数回にわたり掲載しました。授業力の向上に役立てていただければと考えています。



集合に適した場所について

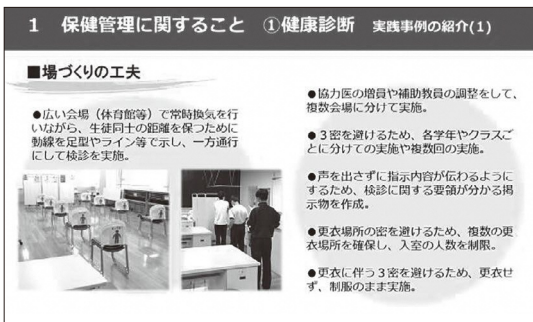
3 新型コロナウイルス感染症の感染予防における養護教諭の実践事例の紹介

新型コロナウイルス感染症予防対策において、今後の各学校での取組の参考とするために資料を作成し、各県立学校に配布するとともに、ホームページに掲載しました。掲載の実践

事例は、令和2年7月時点の取組状況を、各県立学校からアンケート調査により収集した情報をもとにまとめたものです。

本資料は、各学校が文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル『学校の新しい生活様式』」に示された指針に基づき工夫した感染症対策の実践を「保健管理」、「保健室経営」、「保健教育」、「健康相談」、「組織活動」に分類して紹介しています。特に「保健管理」では、健康診断、健康観察、学校環境衛生に関する実践が多く寄せられました。養護教諭が中心となり、工夫しながら着実に、学校における新型コロナウイルス感染症対策が行われていることが分かります。

学校における感染及びその拡大のリスクを低減する持続的な対応を行うため、最新の情報や知見が得られた場合は見直しを行いながら、本資料を活用いただければ幸いです。



保健管理に関する実践例

おわりに

現在、令和3年度の専門研修（短期研修・継続研修）について、計画・準備を進めております。体育、保健体育科では実技を伴うため、オンライン研修だけでは研修の質を担保することが難しいことから、十分な感染症対策を講じた上で集合研修を行うこととしました。短期研修におきましては、多くの先生方の御参加をお待ちしております。

調査研究事業におきましては、「共生を基盤とした体育の授業づくり」というテーマで進めています。事業期間は令和2年度から令和4年度までの3年間です。初年度となる本年度は、授業づくりの理論構築を行い、その理論を基にして令和3年度と令和4年度で授業実践を行います。授業実践で得た成果については、冊子などにして県内外に広く発信していく予定です。で、御期待ください。

本所では、学校支援といたしまして、学校における体育・スポーツ活動、学校保健に関する様々な相談に指導主事が対応します。是非、御活用ください。

福岡県体育研究所ホームページ
<http://www.fukukenkyusho.ed.jp>

INFORMATION お知らせ

総務企画課

福岡県教育委員会会議を傍聴してみませんか

県の教育行政における重要事項や基本方針などを審議する福岡県教育委員会会議は、人事に関する案件などを除き、傍聴できます。開催日、会場、議題など、ホームページに掲載していますので、ご覧ください。

ホームページ： <https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kenkyougaiyou.html>

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、傍聴を希望される方は、検温、マスク着用等にご協力ください。

【問い合わせ先】
福岡県教育庁総務企画課秘書広報係

TEL 092 (643) 3857
FAX 092 (632) 5064

教職員課

県立学校の臨時教員等登録制度のお知らせ

県立の高等学校及び特別支援学校の常勤講師、非常勤講師、養護教諭（期限付）、実習助手（期限付）、寄宿舎指導員（期限付）の希望者の登録を受け付けています。

資格：講師、養護教諭（期限付）については、登録を希望する種別、教科の教育職員免許状を有すること。

手続：教職員課県立学校係で配布している志願書に必要事項を記入し、写真貼付の上、同係に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることができます。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

給与：常勤講師は経験に応じて月額19～30万円程度（別途

各種手当、社会保険等有）です。非常勤講師は学校種別等により異なります。

【問い合わせ先】

福岡県教育庁教職員課県立学校係

TEL 092 (643) 38893
FAX 092 (643) 38896

教職員課

市町村立学校の臨時教員等登録制度のお知らせ

市町村立の小・中・義務教育・特別支援学校（政令市を除く）の常勤講師、非常勤講師、養護教諭（期限付）、学校事務職員（期限付）、学校栄養職員（期限付）の希望者を登録します。

資格：講師、養護教諭（期限付）については登録を希望する種別、校種、教科の教育職員免許状を有すること。学校栄養職員については、栄養士免許証又は栄養教諭普通免許状を有すること。

手続：教職員課市町村立学校係、各教育事務所で配布している志願書に必要事項を記入し、写真貼付の上、希望する勤務地区を担当する教育事務所に提出してください。

※志願書は福岡県のホームページからダウンロードすることができます。

<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/>

給与：常勤講師は経験に応じて月額19～30万円程度（別途各種手当、社会保険等有）です。非常勤講師は任用形態により異なります。

【問い合わせ先】

福岡県教育庁教職員課市町村立学校係

TEL 092 (643) 38892
FAX 092 (643) 38896

福岡教育事務所

TEL 092 (643) 01113
FAX 092 (643) 01211

北九州教育事務所

TEL 0949 (25) 1202
FAX 0949 (24) 3345

北筑後教育事務所

TEL 0942 (32) 3161
FAX 0942 (32) 3040

南筑後教育事務所

TEL 0942 (53) 7342
FAX 0942 (53) 7527

筑豊教育事務所

TEL 0948 (25) 1123
FAX 0948 (25) 4948

京築教育事務所

TEL 0979 (83) 3604
FAX 0979 (83) 3606

九州歴史資料館

●企画展「世界の遺産登録5周年記念 三池港と洞海湾 ～明治日本の産業革命遺産」企画展②～

内容：本展覧会では三池炭鉱から産出される石炭を積み出すために築港された三池港、産業港として変貌を遂げた洞海湾、産業の発展により隆盛を極めた八幡や三池のマチの様子などに関する資料を多数展示します。

開催日：令和3年2月17日（水）～令和3年3月14日（日）
開催時間：9時30分～16時30分（入館は16時00分まで）
休館日：月曜日

観覧料：一般210円（150円）
高大学生150円（100円） 中学生以下無料

※（ ）内は20名以上の団体料金

※ 障がい者とその介護者1名は無料。

※ 満65歳以上の方は無料。

※ 土曜日は高校生も無料。

入館の際は体温測定・マスク着用・手指消毒・連絡票記入にご協力ください。

●第12回九歴講座

「大宰府政庁周辺官衙跡の最新調査成果」

内容：大宰府には、政所・蔵司等20余りの官司が存在しているとされています。一方、大宰府政庁の前面（南側）には、地区ごとに大規模な建物群が存在しています。最新の調査研究成果から、これら建物群の官司

推定を試みます。

講師…小田和利(九州歴史資料館)

日時…令和3年3月13日(土) 13時30分～15時30分

参加方法…参加無料・要申込(先着順)・定員先着80名 全席指

定席

申し込み方法の詳細はチラシ・ホームページをご覧ください。入館の際は体温測定・マスク着用・手指消毒にご協力ください。

【問い合わせ先】

九州歴史資料館 学芸調査室 広報普及班
〒838-0106 小都市三沢52008-3

TEL 0942(75) 9501

FAX 0942(75) 7834

ホームページ <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyueki/>

放送大学福岡学習センター

自宅で学べる「放送大学」 — 大学院生・教養学部生 募集 —

放送大学は、BS放送やインターネット(スマホ、タブレット等を含む)を通して学ぶ文部科学省・総務省所管の通信制の大学です。

【大学院・教養学部】

・特別支援学校教諭二種免許状や、専修免許状等上位免許状取得に利用できます。

・心理や教育、福祉などの幅広い分野から、大学院は約80科目、教養学部は約300科目を学ぶことができます。

・学生は、自己学習のeラーニングサイト「放送大学自己学習サイト」を利用できます。

【2021年度第1学期学生募集期間】

・【第一回】令和2年11月26日(木)～令和3年2月28日(日)

・【第二回】令和3年3月1日(月)～令和3年3月16日(火)

※各学校には、令和3年3月に「2021年度教員免許状及び各種資格について」(放送大学本部作成)を配布しています。併せて、「2021年度教員のための放送大学活用の手引(教科・免許編データ版)」を放送大学福岡学習センターにおいて作成しました。いずれも、福岡学習センターのホームページに掲載しておりますのでご利用ください。

【資料請求・問い合わせ先】
放送大学福岡学習センター

〒816-0811 春日市春日公園6-1

(九州大学筑紫キャンパスE棟4・5階)

TEL 092(585) 3033

FAX 092(585) 3039

サイエンスラボふくおか

福岡県青少年科学館



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各種教室・イベント等を中止・内容等を変更する場合があります。最新の情報は、お問い合わせいただくか、公式サイトでご確認ください。

春の特別展

■「いきものハンター」

～ジャングルの生態系を調査せよ～

【期間】3月13日(土)～5月9日(日)

【内容】舞台はジャングル。探検するキミは「いきものハンター」だ！身体を動かし、体験をしながらジャングルのいきものについて学ぶことができる特別展です。たくさんのおいきものに出会って、キミも「いきものハンター」になろう！

星空教室

■「春の星座」



【期 日】①3月13日(土)

②4月24日(土)

【時 間】10時30分～12時00分

【対 象】小学生以上(※今回は幼児の同席不可)

【参加費】100円

【定 員】各8組(最大24名)

【受付開始】①2月13日(土)

②3月24日(水)

【内 容】季節のおもな星や星座のさがし方、星座早見の使い方をわかりやすく紹介します。また、プラ

ネタリウムで星座さがしの練習をすることができます。

市民天体観望会

■「明るい冬の星々と見え始めた春の星座を楽しもう」



【期 日】3月20日(土・祝)

【時 間】19時30分～20時30分

【対 象】どなたでも(ただし、中学生以下は保護者同伴)

【参加費】無料

【定 員】10組(最大40名)

【受付開始】3月6日(土)

【内 容】プラネタリウムでの星空解説の後、屋上で天体望遠鏡を使った星の観察を行います。(天候不良時でも、星空解説は行います。)

科学工作教室

【期 日】毎週日曜日・祝日

【時 間】11時00分～12時00分 14時00分～15時00分

【対 象】どなたでも

【参加費】100円

【内 容】簡単な科学工作(リング飛行機、パステルプラ板ストラップなど)をします。

【問い合わせ先】

福岡県青少年科学館

TEL 0942(37) 5566

FAX 0942(37) 3770

ホームページ <http://www.science.pref.fukuoka.jp/>



このマークのある教室や催しは、予約が必要です。受付開始日の9時30分から電話または直接来館の上、先着順に受け付けます。

教室や催しに参加する場合、参加費のほかに入館料が必要です。ただし、土曜日は高校生以下の入館料は無料です。また、市民天体観望会の入館料はどなたも無料です。

九頭龍鉦杵・九頭龍鈴（誓願寺）

（中国・元 十三～十四世紀）



九頭龍鉦杵 長二六・七cm



九頭龍鈴 高二五・六cm

誓願寺は、博多湾西部の今津にあります。この寺は、仲原氏の娘の発願で、同宿の僧寛智が建立したものです。安元元年（一一七五）の開堂にあたっては、中国への留学経験をもつ気鋭の僧として知られていた、栄西が導師を務めています。栄西は仁安三年（一一六八）に中国の南宋へ留学した後、文治三年（一一八七）に二度目の留学のために再度渡海するまでの多くの年月を、この誓願寺で過ごしました。なお、二度目の留学で臨済宗を学び日本にもたらしたことから、禅僧としての印象が強い栄西ですが、彼はそもそもは、天台密教の僧侶でした。

平安時代末期、十二世紀後半頃の今津は、新しく開かれた国際交易港として活気に満ちた様子を見せていました。そしてその後もしばし、日本と大陸との交流に大きな役割を果たしたことが、誓願寺に伝わる中国から渡来した文物から窺えます。ここで紹介する九頭龍鉦杵と九頭龍鈴は、そのような渡来文物の実例です。これらは、密教で修法に使用する金剛杵や金剛鈴の一例です。そして、例えば古代インドの武器に由来する金剛杵と言うならば、切っ先である鉦が一つのもを独鉦杵、三つのもを三鉦杵、五つのもを五鉦杵といいます。この金剛杵と、魔を払い仏性を呼び覚ます金剛鈴のうちの、鉦の数が最大になったものが九鉦杵、九鉦鈴です。

誓願寺の作例は、めずらしい九鉦杵、九鉦鈴の例であるにとどまらず、それぞれの鉦が、龍や鳳凰を組み合わせた形に造られていることも特徴です。これが九頭龍鉦杵・九頭龍鈴の名称の由来です。鉦の多い複雑な姿が、これによりさらに複雑になり、そしてその他にもぎっしりとあらわされた文様が相まって、まことに異国的な趣を醸し出しています。制作は、中国の元時代だと考えられています。この二つの個性的で華やかな法具は、誓願寺や福岡平野周辺地域の、鎌倉時代から南北朝時代頃の大津との交流の窓口としてのあり方を、その姿に映し出しています。